

人むすびの場

第26回特別企画
“人むすびグリーン・ツーリズム”
～五感で小菅村～

日時	平成22年8月21・22日(土・日)
会場	小菅村、すずめのお宿
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。

プログラム

2010. 8. 21 ◆ JR奥多摩駅へマイカー組と貸切バス組が集い、
小菅村へ移動
- ◆ 源流体験 指導者: 望月 徹男さん
 - ◆ 小菅の味づくり体験
指導者: 小金持ちグループ ダブル木下さん
 - ◆ 「森林を中心とした村づくり」
ゲストスピーカー: 中田 無双さん(なかだ むそうさん)
(北都留森林組合 参事)
 - ◆ 人むすびカフェ@小菅村
ファシリテーター 友松恵子さん(ともまつ けいこさん)
(コーチング・ダックメンバー)
2010. 8. 22 ◆ 森林セラピー 指導者: エコセラピー研究会 小島 力さん
- ◆ 村内視察 ガイド: 望月徹男さん
 - ◆ 小菅の湯&物産館

◆源流体験 指導者：望月 徹男さん

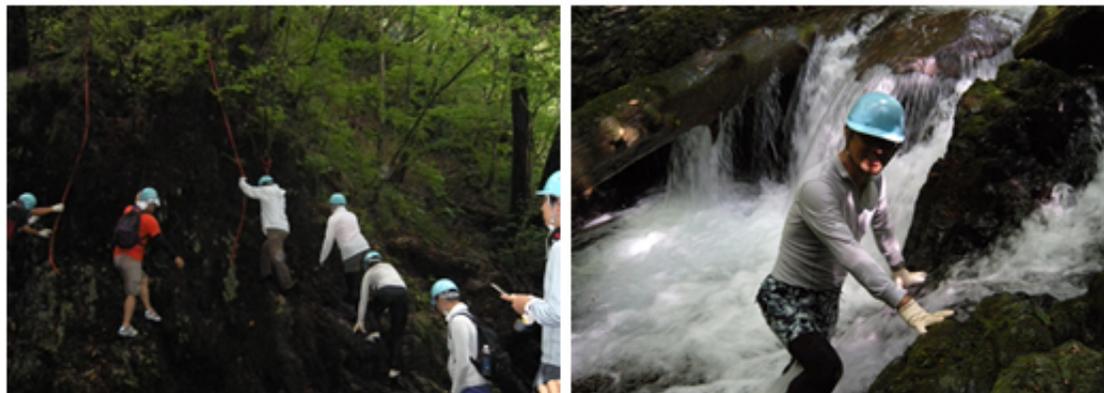
小菅川で源流体験！

ここは東京都が水源を管理していますが、夏だけ環境教育のために子どもたちに解放しています。

私たちは子どもたちの後について、川に足を踏み入れました。水がきれい！

冷たさが心地よい！ 流れの優しい川なのに、水の力は思いのほか強い！

危ないところもあって、スリルを感じました。初めての源流体験は、鮮烈な体験でした。



◆小菅の味づくり体験 指導者：小金持ちグループ ダブル木下さん

着替えた後は、小菅の味づくり体験。小金持ちグループは、金儲けはこの次。自分たちが楽しみながら小菅の特産品を作ろうというグループ。ダブル木下さんご指導のもと、わさび漬けとこんにやく玉をつくりました。わさび3キロを刻むのは大変！こんにやくも灰汁を入れて練りに練ってつくります。結構、力が要るのです。美味しそうに、たくさんできました。





「森林を中心とした村づくり」

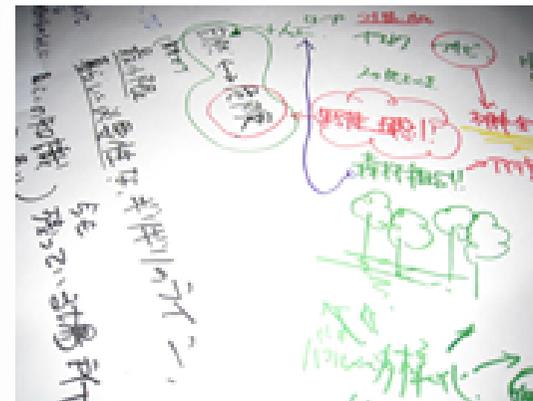
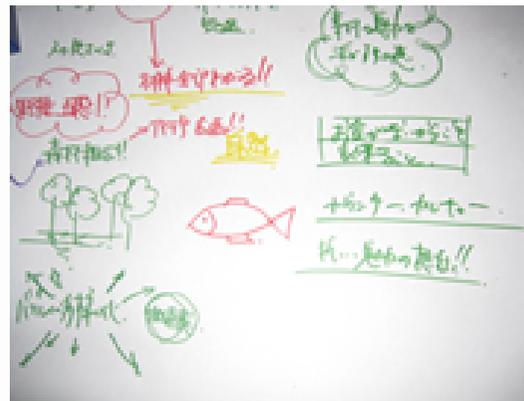
ゲスト 中田 無双さん(なかだ むそうさん)
(北都留森林組合 参事)

- 東京の書店で10年ほどサラリーマン生活を送った後、森林ボランティアの体験プログラムを経験して、林業をやりたくて10年前に小菅村に移り住みました。
- 北都留森林組合は丹波山村・小菅村・上野原町が一緒になった多摩川源流の森林組合で、職員は、事務3名、技能職員が37名いますが、そのうち半分が20～30代の1ターンの人間です。森林保全事業、林産物生産・販売事業、森林林業体験・研修事業を行っています。
- 「森を中心にした持続可能な循環型社会の実現」を活動理念にして都会の人に発信しています。森林生態系を守るためには、山村振興が欠かせません。日本の木は2割くらいしか使われていません。林業で生活が成り立たず、少子高齢化で山村に人がいなくなっています。山の手入れをしながら、山村地域活性化のために、持続・自立可能な新しい山村産業を生み出そうと努力しています。
- 神奈川県や東京都とも多摩川上下流域の連携が進んでいます。
- 最近では、企業との連携も進み、ホンダ、日本たばこなどの企業のCSR事業の委託を受け、森づくりを進めています。
- 東京農業大学はじめ大学との連携も進んでいます。多摩川源流大学では、村人が講師となって活動しています。東京学芸大学は村全体の「エコミュージアム日本村」を目指して公民館でサテライトミュージアムを開設しています。
- 木を使うことで森を守るために、1本1本の木のトレーサビリティを明らかにし、“face to face”の関係を大事にして売込み、働きかけをしようとしています。
- まずは、木心を知ってもらうために、学校で木を使ってもらうための働きかけをしています。人と人の関係を結び直すことが必要だと思っています。



人むすびカフェ

小菅村の方々と東京からのメンバーが集っての初めてのワールドカフェ。ト
キング・オブジェクトは、小菅川で拾った石です。



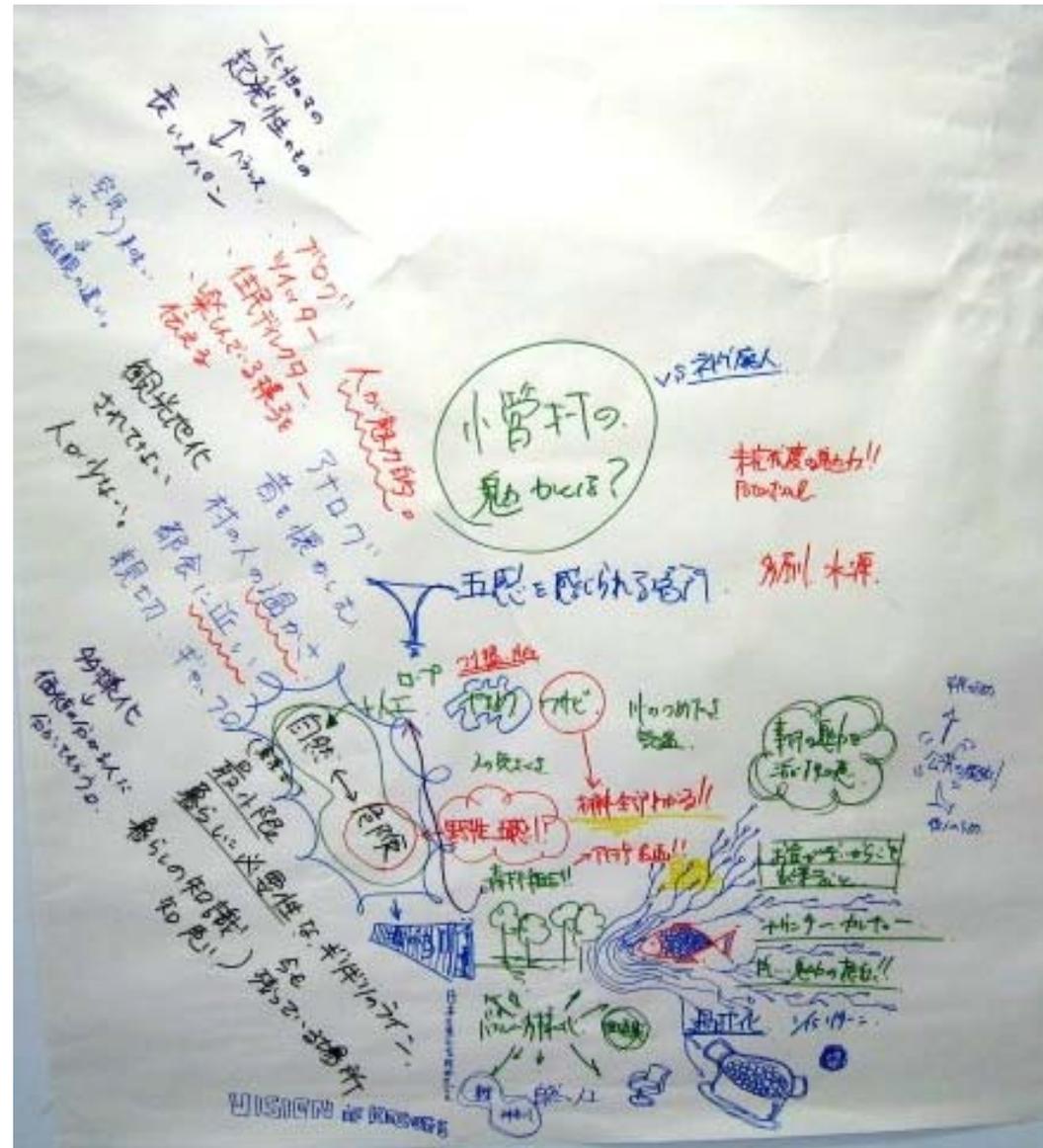
人むすびカフェ

「小菅村の魅力とは？」



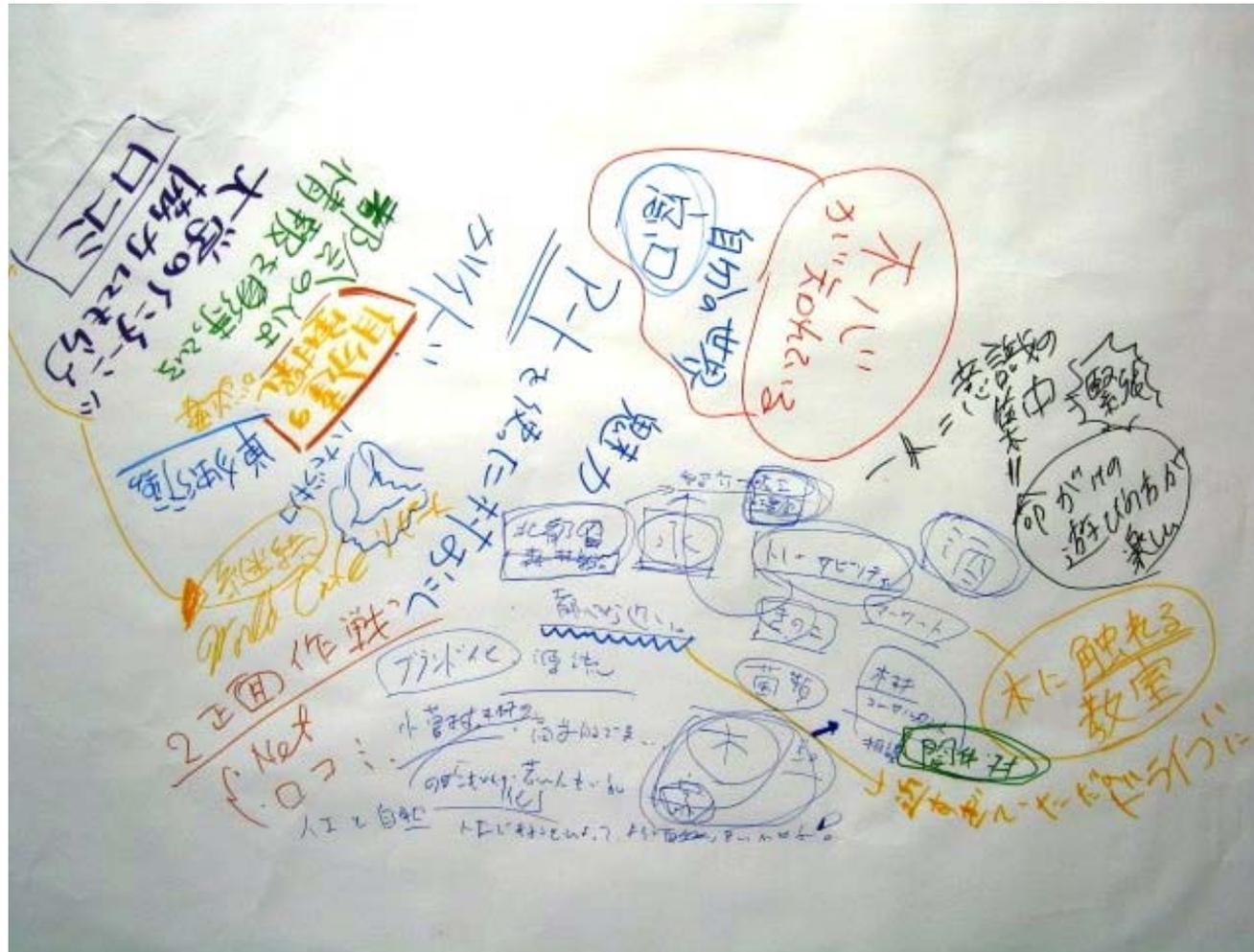
人むすびカフェ

「小菅村の魅力とは？」



人むすびカフェ

「小菅村の魅力とは？」



◆森林セラピー 指導者：エコセラピー研究会

小島 力さん(こじま ちからさん)

松姫峠から森をゆっくり歩きました。森林に入ると涼しい風が渡ります。

小島さんから森の植物や動物のお話を聞きながら、思い思いに森を味わいました。

マットを敷いて寝っころがると、本当に自分が地球と同一化し、一部になったと感じました。

どうして、アタマは自分と地球は別々のものと思ってたんだらう・・・私たちは、自然の一部。

森林セラピーを受けると1ヶ月くらい、ストレスを感じにくくなるそうです。

医療的な価値も見出せる森林セラピー、ストレス社会に疲れた心を癒してくれます。



◆村内視察 ガイド:望月徹男さん

コストが安く作れて、山を壊さない大橋式作業道をつくり、森を間伐して源流の森林資源を守っています。

山の斜面のこんにやく畑も視察しました。農家の高齢化が進み、耕作がむずかしくなり、山肌が見えたところもあります。



◆小菅の湯&物産館

村自慢の美人の湯「小菅の湯」で汗を流し、村の特産品や野菜を買い求める人もあり、思い思いに時間を過ごし、奥多摩駅まで送っていただいて4時過ぎ無事解散しました。

人むすびカフェの感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・はじめて会ういろいろな方と話をすることがこんなに楽しいということがビックリ
- ・どんな事業にしろ人材の育成が重要
- ・小菅村の潜在的な魅力を発見。こんなに近いところで、何でもできそう。
- ・少子化は大変なことと痛感した。
- ・現実 is 厳しい……
- ・林業についてまだまだ知らない事が多い。
- ・昨日まで全く知らなかった「小菅村」。それに問い。こんなに熱く語れたのはよかった。そして、不思議。
- ・小菅村の現実。その魅力を課題を知ったこと。体験を持っていたからこそ肌でわかる部分が大きかった。
- ・ワールドカフェの威力
- ・色んな人むすびの場によって色々な視点からの見方がありましたが、その意見の一番のメインポイントが共通していました。(ex.人とのつながり)
- ・今日はじめて会った方と自然に話しができるようになった。
- ・自然の水の色

人むすびカフェの感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・村のビジョンが大切。情報発信の方法どうする？
- ・外(都会)の人を引き込み、一緒に村を盛り上げる
- ・「木下さん」村のサロンを作ろう。村の魅力のインタープリターになれる。
- ・連携と自力
- ・近くの壁 つくるのは・・・
- ・木心が知れる
- ・「『木』心の知れている」を小菅村のキーワードにしてはどうか？
- ・「コミュニティ」を残す。「持続可能」の意味は深い。ここの自然はやさしい。
- ・継続！！
- ・自然＝危険 →(一人での旅などで)危険な遊びが一番楽しい ⇒小菅村で観光をやる場合の一番の魅力になるのでは？ ということ
- ・自然 ⇔ 危険
- ・自然の危険さ

人むすびカフェの感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・もっと話がしたい!! もっと多くの村民にも参加してもらいたい。また、ワールドカフェに参加したい。
- ・普段、聞くことができない村についての意見を沢山聞けて良い刺激を受けた。
- ・小菅村を多摩川の「拠点」としておもしろく動きをつくりたいと思いました。
- ・村の若い方々との会話
- ・危険だから楽しい源流体験。おいしいものは手抜きしない。コツも大切!!
- ・楽しいひとときアリガトー
- ・もっともっと話していたいと思うような触れ合えてうれしい時間だった。
- ・全員の方と話が出来なかったこと。
- ・くすのきだけミソ汁最高

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。